

# 第37回

# うつのみやこども賞だより

## 令和2年度 2回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

### 《今月選ばれた本》

## 『県知事は小学生？』

濱野京子／作（PHP研究所）



### ～読んだ本の感想より～

- 県知事が、さいしょはがんこだったけれど、じょじょに心を開いていくのがおもしろかった。
- とっても面白かったです。6年生はちょうど政治のことについて勉強しているので、政治のしくみを知ることができるすばらしい本だと思います。
- ねむるたびに入れかわるというのがおもしろかった。さいごに、知事もタカくんも、もともどることができてよかった。
- 日に日に知事といれかわっていて、おもしろかった。県知事も大変なんだと思える本だった。
- 小学生の県知事が、あまり小学生らしくなかったところがおもしろかった。

令和2年8月2日

うつのみやとしょかん  
Utsunomiya city library

### 『アリババの猫がきいている』

新藤悦子／作（ポプラ社）

- 自分は「ここ」にいるのに、世界中を旅しているようにも感じられました。私が大人になったら、絶対にバザールへ行って長老族のねこに会いたいです。
- 猫がおしゃべりできるのは知っていたけど、モノがしゃべることにびっくりした。あと、猫がかわいい。
- この本を読んで、しっかり物を大切にしようという気持ちになれるので、いいなと思った。
- もし本当にあったら…とそうぞうしながら楽しく読める一冊。「アリババ」や「ひらけゴマ」など、人や店などの名前も工夫しており、また、ストーリー性があって読み進めやすい。
- モノにはそれぞれさまざまな過去があった。わたしも家のモノと話せたら楽しいだろうと思った。

### 『ごきげんな毎日』

いとうみく／作（文研出版）

- きわ子さんが喜一たちの家に来たときに、喜一がきわ子さんを見てびっくりしていたところが心に残った。
- 4人家族が引っ越し、ごきげんな毎日をすごしていたところにとつぜんおばあちゃんがやってきたというストーリーで、ページをめくる度にドキドキしてしまいました。
- 自分も、お話のように元気なおばあちゃんにあってみたいと思いました。
- きわ子さんは毎日どこへ出かけているのか？何をしているのか？というなぞがあり、それを解き進めながら読むのがとても楽しかった。

### 『ぼくと母さんのキャラバン』 柏葉幸子／著（講談社）

- 小さなハプニングが大きなハプニングのかいけつ法を生みだしたり、人々のかんけいがとても細かかったり、よみがいのある本でした。
- ネズミやくまが出てきた時はとてもびっくりして、怖かったけど、お話を読んでみると、優しくても話してみたいなと思った。
- まるで自分がぼうけんしているようでした。動物が出たりおばけが出たり、武将などもいて、本の世界に入っているようでした。
- 沢山ハプニングがあって楽しかったです。金（卵）がグリフィンになった時は感動しました！